

こたえ てんぐのかくれみの

ひょうじゅん 標準 ④

てんぐのかくれみの

(日本の昔話)

昔、ある村に、ずるがしこい男の子がいました。ある日、男の子は、山の上で竹のつをのぞきながら、大声で言いました。「わあ、遠くの町まで、よく見えるぞ。」

その声を聞いて、山にすむてんぐがやってきました。「その竹のつつは、そんなに遠くまで見えるのか。わしのかくれみのと取りかえてくれ。」

かくれみののは、着るとすがたが見えなくなる、ふしぎなみのです。男の子は、喜んで取りかえ、すぐに山をかけ下りました。てんぐが竹のつつをのぞいても、何も見えません。だまされたと気づいたときには、男の子はもう、いなくなっていました。

男の子は、かくれみのを着て、村の店のお菓子^{かし}をこっそり食べたり、人の家に入っごちそうを食べたりして、いたずらを続けました。

ある日、男の子の母親が、きたないみを見つけ、かまどで燃やしてしまいました。男の子は、残った灰^{はい}を体にぬりつけてみました。すると、また、すがたが消え

た。ところが、酒を飲んで口のまわりの灰^{はい}が取れ、口だけが見えるようになりました。村の人たちに見つかった男の子は、追いかけられて、川に飛びこみました。灰^{はい}はすっかり流れ落ち、男の子はみんなの前ではだかのまま、はずかしい思いをしたということです。

1 男の子は、何をのぞいていましたか。

竹のつつ

2 かくれみののは、どんなみのですか。

ア 着るとすがたが見えなくなる。

イ 着ると空を飛べる。

ウ 着ると力が強くなる。

3 てんぐが、竹のつつとかくれみのを取りかえたのは、どうしてですか。

竹のつつで、遠くの町までよく見えると思ったから。

4 男の子が、さいごにはずかしい思いをしたのは、どうしてですか。

ア 川に飛びこんで、灰^{はい}が流れ落ちたから。

イ 母親にしかられたから。

ウ てんぐにつかまったから。

おうちの方へ

- ずるいことをすると、自分に返ってくるという流れを読み取りましょう。